

# 令和3年度 職員による学校自己評価(中間評価)

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

回答総数 69

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標	
				A	B	C	D		
1 学校づくり	新しい学校づくりに向け、 普通科教育・理数科教育・ 中高一貫教育および5期SSHのプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	<p>【新たな取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新設SSH科目「データサイエンス」「国際情報」の実施</li> <li>・「SSHミニフォーラム」の実施(リベラルアーツを意識した取組 希望者20名程度) 第1回5/25(火)「SDGs」 第2回7/20(火)「考古学」 第3回9/27(火)「健康」</li> <li>・「科学に親しむ教室」の実施(地域貢献のための取組) 7/29(木) 屋代公民館(小学校低学年) 8/5(木) 屋代公民館・埴生公民館(小学校高学年)</li> <li>・海外校とのオンライン交流(高3理数科9名参加) 8/26(木) オーストラリアWenona高校</li> </ul> <p>【例年の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH科目「グローバルサイエンス」「アカデミックサイエンス」での特別講義の実施</li> <li>・探究活動の実施「科学リテラシー」「一人一研究」「課題探究(普通科)」「課題研究(理数科)」 8/28「課題探究中間発表会」(高2)</li> <li>・第36回 SSHサイエンスフォーラム5/11(火) テーマ「ロボットと共生する未来社会」</li> <li>・8/3～4「つくばサイエンスツアー」</li> <li>・各種科学コンテストへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ、第5期の計画通り実施できている。</li> <li>・データサイエンスの講義では、iPadで使用するソフトの準備に不備があり、タイムロスになってしまった。来年度は使用するソフトについて確認をして実施したい。</li> <li>・国際情報での海外校との交流について準備を進めている。初めての取組なので、いろいろ情報交換しながら準備し、実施したい。</li> <li>・探究活動における評価など、SSH事業における評価方法を検討して実施したい。(5期申請の内容に沿った形で実施)</li> </ul>	17	42	9	1	77.2	
		月に1回程度(年10回)のオンライン・探究学習日を設けた。前期は5月・6月・7月に3回実施。(中学)	午後の探究学習の時間を充実させる取組が必要。(中学)						
		<p>4月「BYOD」一人一台端末の先行実施。(情報・高1)</p> <p>7月「進学型単位制」導入の決定。(教務)</p> <p>8月・9月コロナウイルス感染拡大による「オンライン授業」の実施。(中1～高2)</p>	<p>BYODの実施は昨年度から準備を進めたため、他校に先駆けて導入や運用ができた。</p> <p>選択科目の選定や類型の設定など、新たな学びの枠組みを具体化していく必要がある。</p> <p>生徒への事前指導や職員の授業体制がスムーズにできたため、混乱なく運用ができた。</p> <p>ICT機器の活用を日常の学校生活の中でどう位置づけていくのか、まだまだ検討を重ねていく必要がある。</p>						

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
2 キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	夏期休業中「夏季補習」を6日間実施。学習合宿の代わりとして同様の日程で「学校学習」を3日間実施。(高3)	補習への参加や1棟での自習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。(高3)	15	46	9	1	77.2
		6月「文理別キャリア講演会」9月「屋代ミニ大学(オンライン)」等の企画を計画実施。(高2)	コロナ禍のためオープンキャンパスなどで大学を見学することが思うようにできないため、さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。(高2)					
		夏休み「キャリアガイダンス」を実施。6月・9月「キャリア講演会」を実施。(高1)	社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。後期は文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるよう指導・支援することが大切である。(高1)					
		5/26「職員進路研修会①」実施	昨年度の進路結果やキャリア教育指導のノウハウを共有することができた。それを基に今年度のキャリア教育の指導体制について確認することができた。後期は「職員進路研修会②」で今年度の具体的な入試動向について職員間で情報を共有できるように、情報収集や分析に努めたい。					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	7月「保護者懇談会」の実施。週1回程度「学年通信」の発行。(全学年)	学年通信は保護者にもメールで直接発信する形をとり、保護者へ確実に必要な情報が伝わるようになった。更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。(全学年)	23	41	5		81.5
		月1回程度「学年集会」実施。(高3)	学年集会ではキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また、定期的に学年通信を発行し、必要な情報を届けている。後期は模試、共通テスト、個別試験、推薦に関する情報を更にきめ細かく発信していく。(高3)					
		進路情報の掲示。9月「先輩の話を聞く会」を実施。(中学) 「卒業生の紹介」を4回実施。(中3)	「先輩の話を聞く会」では、成功体験だけでなく失敗から学んだ例も挙げていきたい。(中学) 保護者懇談会などの機会に屋代高校の特色や生活を伝えていきたい。(中3)					
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	「学年通信」の活用。「学年集会」の実施。「進路講演会」や「オープンキャンパス」の活用。「模試」「定期考査」結果の活用。(全学年) 「キャリア教育係会」「学年会」「教科会」による職員間での情報共有。	科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。模試の結果をふまえて、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3) 学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2) 学年集会や文理選択説明会等の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。(高1)	18	44	6	1	78.6
		立志館事業として「特別講座」(数学・英語各16回を計画)を同窓会館で延べ28回実施。8月「夏休み学習会」の実施。9月「テスト前質問講座」「学習会」の実施。水曜日の放課後に「CSS」を開設。(中学)	後期に向けて講師の確保と謝礼(支出と所得税)の対応が必要。(中学)					
		6月「個別面談」(全学年) 「模試」の実施 8回(高3・希望者模試含む) 1回(高1・2) 「定期考査」の実施 6月・9月(高校) 9月(中学)	定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。生徒の精神的な部分も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。(高3) 面談や模擬試験等の機会を利用して、志望学部・大学等を考えさせる指導・支援ができた。修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。(高2)					
	学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	4月「スタディサポート」実施。(高1・2) 4月・9月「学力推移調査」実施。「通知表」のほかに「テスト成績表(年2回)」や「学びの軌跡(年4回)」を発行。(中学)	各考査の成績やスタディサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高2・高1) 定期的に学習状況を振り返ることができる通知を発行できるようにした。学力不振の生徒への支援を個人面談や補習等で充実させたい。(中学)	15	48	5	1	77.9

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標	
				A	B	C	D		
3	教科指導・授業改善 探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	「校内授業公開」実施 6月8日～19日	ICT機器の活用法を中心に授業の工夫を共有・コロナ禍でのALの進め方をさらに追究	21	43	4	1	80.4	
		「カリキュラム研究のための職員研修会」開催 4月28日・6月9日	6年間一貫カリキュラムマップの作成、共有・観点別評価の試行とそれを生かしたシラバス作成						
		「授業充実のためのアンケート」実施 9月13日～10月1日	生徒の授業満足度が高いことを確認・教科、学年、項目によるバラツキの改善						
		科学リテラシー「卒業研究」「修学旅行に向けた探究学習」「卒業探究学習」(中3) 「棚田学習」「校外課題探究学習」「北陸研修旅行に向けた探究学習」の実施(中2) 「長野市探索」「千曲市探索」の実施(中1)	高校での「課題探究」へのつながりを意識して進めてきた。各自の卒業研究が完成するよう支援していきたい。(中3)						
		4月・6月・9月「職員ICT研修会」実施。	「ロイロノート」の使い方・オンライン授業の事例紹介・他県の実践紹介など、様々な形で職員にICTでの学びに関する情報を提供できた。						
4	生徒指導 通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	4月「交通安全教室」実施(中1・高1) 5月「生活安全講話」「交通安全講話」実施(全校) 7月「性被害防止キャラバン」(高1) 5月・7月・9月「交通安全該当指導」実施(職員)	例年に比べて交通事故の件数が減少した。「交通安全講話」は長野県警とお笑いコンビ「こてつ」がコラボレーションをした。生徒にも概ね好評であった。	19	48	2		81.2	
		9月「携帯電話の所持」を許可、実験的に実施。長期休み前後「登下校指導」を実施。(中学)							
	生徒支援 個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	7月「いじめアンケート」の実施。個別面談の実施。(全学年)	いじめアンケートの結果を精査し、担任や生徒支援との連携を強化する。「いじめアンケート」を参考に個別に生徒から話を聞いたり、学校生活の様々な場面でいじめのない学校生活を送るよう指導した。学年集会等で全体でいじめ、暴力をしないよう指導したり、気になる生徒をアンテナを高くして見ていきたい。(中学)	18	50	1		81.2
		スクールカウンセラーによる「カウンセリング」19日実施。「個別支援会議」の実施。外部機関との連携。 「長期欠席」等の生徒や家庭への継続的な支援。(中3) 全員との個人面談の設定。「ぼくノート」の実施。生徒の思い等を自由に表記させる。(中2)	担任やスクールカウンセラー・外部機関と連携し、生徒個別の状況に応じた支援を行うことができた。引き続き、適切できめ細やかな支援をし、生徒や保護者に寄り添う支援をしていきたい。 前期と同様に連絡をこまめにとって支援するとともに、高校進学に向けて指導していきたい。(中3)	23	41	5		81.5	
人権教育 すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	夏休みを利用した、支援会議の準備。(中学) SHR時「今日のMVP」(友の良さ)を紹介。「性教育」についての講演。(中2)	申し出は一つも出なかったが、今後も継続的に声がけは必要である。(中学)後期は自分に返す活動をしていきたい。(中2) 行事、各教科の学習の中で人権教育を進めてきた。前期に引き続き、行事、各教科の学習の中に位置づけていきたい。(中3) 学年集会等で全体でいじめ、暴力をしないよう指導したり、気になる生徒をアンテナを高くして見ていきたい。(中学) 「性教育」についての講演では、多様な「性」を認めることを考えるきっかけとなった。(中2)	16	50	3		79.7		
	9/16 職員研修会「思春期の精神保健～思春期の精神疾患の理解と学校に求められる支援～」(福家知則医師)を実施	困難さを抱えた生徒に対する理解が深まる研修になった。後期は生徒への研修を企画中である。							
5	情報発信 本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	4月「学校要覧」作成。5月「第1回授業公開」実施。6月「中学校説明会」実施。「学校案内パンフレット」作成。7月「中学生体験入学」実施。 「ホームページ」週1回程度の更新。屋代高校前駅ホーム「屋高の窓」月1回程度の更新。	保護者に、学校だけでなく学年からもメールを一斉送信できるように整備をした。コロナ禍のため、屋代高校に直接足を運んでもらう機会を取りにくいので、情報発信を頻繁に行い、学校の取組や様子を地域に幅広く伝えていきたい。	26	39	4		83.0	
		5/31～6/4「授業参観week」実施。「学年通信」による日々の学びの紹介。(中学)	後期、総合文化発表会で中学3年間の集大成を見ていただけるよう努力したい。(中3)						
		5/22「PTA総会」動画配信(PTA)	PTA役員の皆様の協力や先生方の協力もあり、無事、録画配信ができた。						

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
生徒会	質実剛健の気風を大切に して、執行部と各会員が 一体となった自主活動の ための指導支援ができた か。	4月・8月「携帯電話所持を考えるチーム会議」への参加。 本部役員が全校生徒の活動を昼休みに紹介。 今年度から全員が生徒会に参加し活動するように組織を変更。(中学)	「携帯電話の所持」については全校の活動であることを広めていき、様々な立場から幅広く議論をしていきたい。 役員以外の会員の意見を集めながら運営できた。 引継ぎなどの機会を大切に支援していきたい。特定の委員会に負担が偏らないように配慮したい。(中学)	22	41	6	80.8	
		4月・5月「生徒総会」2回開催(オンライン) 4月「一斉委員会」開催 週1回「定例役員会」を開催。 行事ごとに必要に応じて各委員会ごとに「臨時委員会」を開催。 「班長会」5回「班室清掃」3回実施。	コロナ禍で工夫をしながら生徒の自主的活動を支援できた。班活動は活動の自粛期間が断続的にある中で、安全な活動に向けての指導と班活動の活性化を支援した。引き続き中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。					
全体	生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をする ことができたか。	鳩祭へ向けて「一斉係会」3回実施。例年と異なる状況へ対応するために「正副鳩長と係職員の打ち合わせ会」を週1回実施。	感染が拡大する中で、打ち合わせの回数を増やし、感染者を出すことなく安全な鳩祭を実施することができた。来年度の鳩祭での一般公開へ向けて、新役員との打ち合わせ会を実施し、内容・対策の検討を始めている。	14	40	13	73.9	
		6月「春季クラスマッチ」通常日程で開催。7月「鳩祭」を校内公開の通常日程で開催。9月「秋季クラスマッチ」通常日程で開催。	コロナ対策に注意して準備・運営をすることで、生徒会活動が例年に近い形で実施できた。全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。					
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	定期的な「清掃用具点検」の実施。2か月毎「補充」を施行。毎日「当番活動」「呼びかけ」を実施。(厚生) 必要な清掃用具の整備。(中学)	生徒会と連携して生徒のゴミ分別の意識づけを行った。生徒会と連携し、用具の点検、補充を継続させたい。後期は落ち葉等の外掃を充実させる。(厚生) 必要な清掃用具を係の先生にお願いして不足なく使用できた。6校時から清掃時間への切り替えをしっかりとできるよう指導していきたい。(中学)	14	40	13	73.9	
令和3年度 前期 新型コロナウイルス感染症予防についての取り組み 【全体での取り組み】 ・生徒は健康チェックカードへ記入し、担任は朝のSHRで健康観察を実施 ・学校全体の授業や行事を三密にならないよう工夫し、個々でも行動に注意 ・マスクの着用の徹底 ・こまめな手洗いや手指のアルコール消毒の心がけ、意識の向上 ・教室の換気(扇風機の有効活用) ・清掃時に大勢が触る箇所の消毒作業 ・黙食の取り組み 【保健委員の活動】 ・放送で、手洗い、昼食時の注意、換気促進等の呼びかけ ・ハンドソープと消毒用アルコールの補充 ・授業や休み時間の積極的な換気 ・クラスマッチや文化祭等の行事での消毒作業 ・保健だよりを使った啓発活動。中学生はデジタル保健だよりで昼食時に配信 【購入品】 ・ハンドソープや消毒用アルコール、次亜塩素酸ナトリウムや衛生用品を十分確保 ・非接触性体温計や普通の体温計を大量購入し、行事や班活動などに有効活用 ・全部のトイレや流しの一部の蛇口を自動水栓化 ・体育館へ大型扇風機の設置 ・アクリル板 ・パルスオキシメータ ・空気清浄機(保健室) など 【その他】 ・強制はしていないが、各家庭の判断で予防接種を受ける生徒も大勢いる。	日常の学習活動から班活動まで、すべての活動で感染症予防に取り組み、前期は学校内で感染拡大をさせることなく学校の活動を行うことができた。後期も引き続き感染拡大防止の意識を持続し、また設備や物品面もさらに充実させて、生徒が安心して学習活動や班活動に取り組める環境を整えていきたい。							

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点となるように換算しました。 [換算式] 25 × (4点×Aの数+3点×Bの数+2点×Cの数+1点×Dの数) ÷ 総数